

雪だるまで版画!?

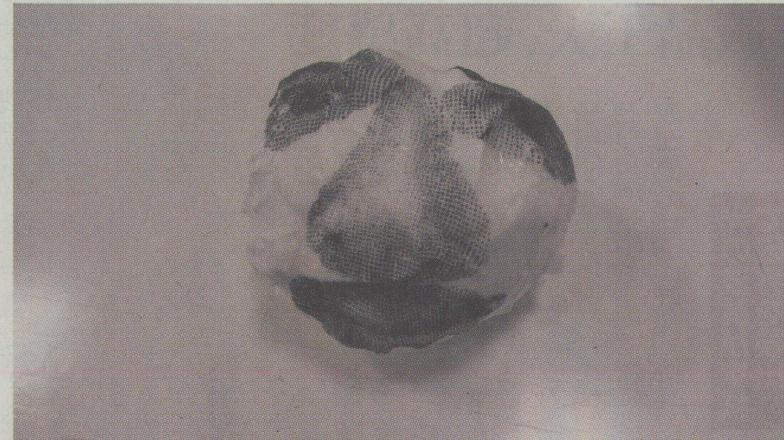
アートの現場から

ACAC通信

今年は新年から雪、雪、雪。雪かきに始まり雪かきに終わる毎日です。去年は全くと言ってよいほど積雪が無かったので、2年分一度に降っているのかしらと思ひほどです。

青森公立大学国際芸術センター青森では2月20、21日（土、日）といふ一番雪深い時期の2日間に、そんな雪にうんざりしている気分を、前向きに変えるようなワークショップを開催します。「自分の顔de雪だるまを作ろう」というタイトルの、シルクスクリーンという版画の技法を使って雪だるまを作るという、聞いただけではどうやって作るのか想像がつかないようなワークショップです。

シルクスクリーンは、言葉にはあまり馴染みはないかもしれません、実はTシャツやトートバッグなどの印刷に使われることもある技術です。また、30代以上の方ですと、「プリントゴッコ」という商品をご存知の方もいるかもしれません。プリントゴッコは、シルクスクリーンの道具や



工程を簡易化した、家庭用の印刷機です。今までパソコンで図柄を作つてプリンターで印刷する、

パソコンは無く、年賀状作

成と言えばプリントゴッコを使う人も多くいました。

ワークショップでは、顔を写真に撮り、その写真をシルクスクリーンで刷りま

す。直接雪だるまに刷るのは難しいので、オブラー

ー

ーと3次元の

に印刷し、それを雪だるまに転写して自分の顔の雪だるまになります。オブラー

ー

ーの粒が並ぶ作品もあれば、そのインクの粒をセミ

の抜け殻など他の立体に張り付けた作品もあります。

一般的には平面のものと思

われている版画家と立体を行

き来し、2次元と3次元の

境目はどこにあるのか探る

ような作品です。今回のワ

ークショップも、平面から

は直径9cmの小さな物な

ので、目、鼻、口のパーツ

ごとに分けて刷

るので、雪だるまに転写する時

にちょっと位置

を変えると、表

情の違う雪だるまも作ることが出来ます。

ある版画家の方は「シル

ークスクリーンは、空氣以外

は何にでも刷れる」と教わ

ったそうです。今回は直接

雪に刷るわけではありませんが、版画と雪という、今

まで見たことの無い組み合

わせです。移動も大変な季節ですが、ご参加お待ちし

ております。

講師にお招きする小野耕石さ

んは、シルクスクリーンで何度も同じ所に刷ることで、インクを重ねて分厚く

「自分の顔de雪だるまを作ろう」は2月20、21日（土、日）の午前10時から午後4時まで。参加無料、定員15名、申し込み制。防寒具を

持参してください。

小野耕石さんが（青森公立大学国際芸術センター青森主任学芸員 金

子由紀子）

ンで作った雪だるま

※第1金曜日掲載